



平成 30 年度制度・政策要求 福岡県へ提出！

福岡県労福協は、11月30日(木)、制度・政策改善に向けた取り組みとして「福岡県平成30年度予算編成に係る要請書」の「手交式」を行い、小川洋福岡県知事に提出しました。

手交式には、福岡県労福協側から高島喜信理事長はじめ三役、理事及び制度・政策委員併せて11名が出席しました。また、連合福岡議員懇談会会長・富田徳二県議、同じく事務局長・原田博史県議出席しました。福岡県からは、小川洋県知事、樋口直樹労働局長、田上喜之労働政策課課長に対応いただきました。

手交式は、深町専務理事の司会で始まり、出席した労福協の役員の自己紹介を行った後、高島理事長から「連合が労働運動とするならば、労福協は労働者福祉事業を展開するうえで、どのようにして県と一緒に取り組んでいくのか、これが大きな課題だと思っている。そう言った意味において本日、会員団体が要請書をまとめたので、ご検討をお願いし、実現していただきたい」と挨拶しました。その後、高島理事長から小川知事へ「要請書」を手交しました。

小川知事からは、「要請内容については、予算編成の中でしっかりと検討させていただきたい。日本の経済状況は、緩やかな回復基調にあるが、その中で福岡県の状況は、生産、輸出、消費は全国平均を上回っており、緩やかに拡大している。有効求人倍率は、統計を取り始めて過去最高水準の1.52を占めし、一番厳しい雇用状況にあった筑豊地区でも1.2を超えている。この景気の拡大というものを実感できるようにしていくことが大事と考えている。とくに額に汗して頑張っている人たちが報われる、そして将来に夢や希望が持てる社会を創っていくことが重要と考えている。」とご挨拶がありました。

その後、意見交換を行い、平成30年度制度・政策要求書の手交式を終了しました。



中央労福協 第63回定期総会開催される！！

中央労福協は、11月22日(水)、東京都荒川区の「ホテルラングウッド」において、「連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくろう！」をメインスローガンに「第63回定期総会」を開催しました。

総会では、来賓、役員、代議員等、総勢204名が出席しました。冒頭、中央労福協を代表して神津里季生会長は「それぞれの持ち場立場において、労福協運動の取り組みを重ねていただいていることに敬意を表したい。中央労福協は2019年に設立70周年を迎えます。これから2年間『連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会』の実現に向けて、残された課題の達成に全力を挙げるとともに、これ

までの成果と課題や時代状況の変化も踏まえて2020年ビジョンの検証・見直しを行い、今後の活動の指針となる新たなビジョンを策定したい」と挨拶がありました。

議事では、「2016～2017年度活動報告」「2017年度会計決算報告」「2017年度会計監査報告」があり、満場一致で承認されました。続いて、「2018～2019年度活動方針案」「2018年度予算案」が提案され、質疑応答後、承認されました。次に、役員改選があり、神津会長、花井事務局長はじめ、14名の役員が承認されました。最後に、スローガン案が採択され、第63回定期総会の全ての日程を終了しました。



2017 福岡県民さわやかマラソン大会開催！

今年で17回を迎える2017福岡県民さわやかマラソン大会が、11月26日(日)、福岡市東区西戸崎の「海の中道海浜公園 特設コース」において開催されました。

当日は、ランナーにとっては絶好のマラソン日和となり、参加者も最高齢83歳から1歳7か月の幼児まで、幅広い年齢層から1,955組(2,320名)のエントリーがありました。また、家族・応援者、事務局スタッフを含めると2,500人を超える方々が「海の中道海浜公園 特設コース」に集まり、ランナーに熱い声援を送っていました。今年、ゲストとして、元ショートトラックスピードスケート日本代表の勅使川郁恵氏を招き、ウォーキング教室を開催、ランナーとの伴走などが企画され、大会を盛り上げました。

この度も多くの企業・労働組合・団体等の協賛をいただき、運営を支えていただきました。また、福岡県労福協会員である連合福岡、九州労働金庫福岡県本部、全労済福岡推進本部、福岡県生協連、北九州総合労働会館、各地域労福協の皆さんには、協賛に多大なご支援・ご協力をいただきましたことに厚く感謝申し上げます。



来賓あいさつする九州労働金庫
福岡県本部 梶原正実本部長



選手宣誓；東住吉小学校6年生



新競技0.5km家族ペアのスタート



1km1年生女子表彰式

労働者福祉南部ブロック協議会2017年度「研究集会」開催！

労働者福祉南部ブロック協議会(南部労福協)は、11月28日(火)～29日(水)の両日、大分市寿町「九州労働金庫大分支店5階会議室」において、労働者福祉南部ブロック協議会2017年度研究集会を開催しました。会場には、九州、沖縄の各県労福協から119名、福岡県労福協から12名が参加しました。

研究集会は、南部労福協吐合事務局長の司会進行で始まり、主催者を代表して南部労福協佐藤会長から「本来ならば、10月に開催予定であったが、ご案内のように急きよ総選挙となり、本日の開催となった。ご理解をお願いしたい」と挨拶がありました。また、来賓には、大分県商工労働部神崎忠彦部長、連合九プロ矢田信浩事務局長、中央労福協花井圭子事務局長より、歓迎と激励の挨拶がありました。研究集会は下記の内容で進行し、二日間の日程を終了しました。

【一日目】

講演1「生活困窮者に対する伴走型支援」

講師：NPO法人抱樸常務理事 山田耕司氏

報告1「フードバンクおおいた」の取り組み

講師：フードバンクおおいた 会長 高橋 強氏

報告2「ハイリスクな子どもたち」

講師：おおいた子ども支援ネット 専務理事 矢野茂生氏

【二日目】

講演2「生活困窮者支援と日本の福祉」

講師：大分大学 准教授 垣田裕介氏

講演3「子ども食堂の現状と課題」

講師：大分県社会福祉協議会 地域福祉部地域福祉課課長 藤田亘宏氏



南部労福協を代表して挨拶する佐藤会長



連合九プロを代表して挨拶する矢田事務局長